

J A 自己改革推進レポート（J A 鳥取中央） 4月号

（1）役員による「担い手訪問」の実施

4月3日、倉吉市関金で役員が畜産経営者および米生産者を訪問しJ Aに対する要望や意見を聴き取った。

その中では新規就農者の確保や生産者の所得増大について相談があり、現状の課題として各関係機関へ繋げ対応していく。今後も役員による担い手訪問を継続して行い、更なる支援に取り組む。



（2）㈱グリーンファーム大黒による「農業実践研修」の実施

J A鳥取中央の子会社㈱グリーンファーム大黒は、4月3日～5日、10日～11日の2回に分けて農業大学校アグリチャレンジ科の研修生5人を受け入れ、農作業研修を実施した。

同校のアグリチャレンジ科は、社会人向けの公共職業訓練として3か月間、就農に必要な基本的技能を学ぶもの。10日には2名の研修生がスイカのツルをまとめ、そろえる整枝作業を行った。

研修生は初めての作業に戸惑いながらも丁寧に作業を進め、笑顔を見せながら「現場での経験を積み、早くおいしいスイカが作れるよう頑張りたい」と話した。



（3）支所等による地域貢献活動

J A鳥取中央倉吉支所が第15回「うわなだ桜まつり」に参加した。「地域に寄り添うJ A」を目指し、J A自己改革の中で地域貢献の一環として昨年からの活動を始めた。会場ではJ A職員12人がビーフステーキなど80枚を焼き、また同J Aの直売所「旬鮮プラザよってみたい菜」も出店。旬のイチゴとイチゴ大福を販売し、会場に訪れた地域住民との会話により交流を深めた。同支所の中林順子支所長は「組合員、地域住民のみなさんとのふれあいを大切に、今後も継続して行っていきたい」と話した。

